



NPO法人伊勢サッカー協会
50年記念誌

50th
ANNIVERSARY



子供たちのために
みんなのために
そして未来のために



isesoccer.com

発行:NPO法人伊勢サッカー協会
編集:協会設立50周年事業実行委員会



設立の経緯と今までの歩み

1971年を協会設立年としているが、厳密には既に社会人・高校生を対象とした市長杯が実施されており、協会長とされる方が存在していた。1971年は伊勢ヤングキッカーズ（後に伊勢フットボールクラブへ改称）が県登録した年度であり、1980年、西ドイツチームを伊勢で受け入れるための体制づくりがきっかけとなり、伊勢ヤングキッカーズ所属の選手を中心に組織化されたことで1971年を協会設立年と制定した。

1980年代半ばより少年団チームの発足が進み、少年団保護者が各チーム運営に携わる機会が増え、保護者による協会事業への参画が大きく進んだ。この当時、協会が目指していたのは、サッカーグランドの環境整備と選手育成の2本柱であり、「地域との融合（現在の『サポーター』の増大）」を意識した活動を展開した。理事会が定例化され、議論が深夜に及ぶことも度々あった。

1990年代にはJリーグ発足の影響もあり、伊勢地域でもサッカー熱が高まり、諸大会を伊勢で開催する環境が整い始め、少年団レベルでは他地域との交流が進んだ。少年トレセンの活動も軌道にのり、県内で

優勝を収める機会が幾度もあり、サッカーの普及段階から選手の育成強化にも発展してきた。

2000年代には技術部が再スタートし、中学生トレセンを発足させるとともに、少年期から大人までの一貫指導のあり方を議論したり、指導力の向上及び指導者育成を目指した定期的な指導者講習会・交流会を開催した。また、中学年代まで協会加盟チームに所属した5選手がプロ契約を結んだ。大きな変革としては、「伊勢市サッカー協会」から「NPO法人伊勢サッカー協会」として再スタートを切った。「基本理念」、「3つの柱」を明確にし、会員全体で共有した。また、伊勢市だけではなく、伊勢近隣地域とともに協同する姿勢を打ち出した。

2010年代には、地元企業の全面的なバックアップと行政の理解を得て、伊勢フットボールヴィレッジが完成し、全国のチームを迎える環境が整った。このことにより、地域の発展はもとより選手・チーム強化にもつながり、6人目のJリーガーが誕生するとともに、各年代での全国大会出場に至った。

基本理念と3つの柱

サッカーの継続的な発展に取り組み、スポーツ文化の定着を図り、青少年の健全育成及び地域の活性化に寄与するとともに人々の生涯を通じた自己実現と豊かで活力あふれる「わがまち伊勢」づくりに貢献します。また、サッカーによる南勢地域活性化のためリーダーシップを発揮します。



たくましい人材の育成

伊勢の将来を担う子どもたちにサッカーの楽しさを伝え、多様な価値観のもと個々のニーズに応じた楽しみ方や活動を通じて、自立を促し、心身の健全な発達に寄与します。プレーヤー（選手）だけでなく、サポーターとしての関わり方も重視し、保護者・関係者等の様々な関わり方を推進します。



サッカーファミリーの育成

世代・性別・経験を超えて、地域の人々がサッカーを通じて交流し、お互いを身近に感じられる社会づくりを目指します。誰もがサッカーを通じ家族のように強い結びつきをもてる社会を目指します。



豊かで活力ある伊勢つくり

人々がサッカーによって活気づき、健康の保持増進が図られ、生きがいと張りのあるまち伊勢づくりに貢献します。

ごあいさつ 会長 津田裕也

平素は本協会の活動にご理解、ご協力を賜り誠に有り難うございます。

本協会は1971年に設立し、2006年にNPO法人伊勢サッカー協会として再編しました。法人化の過程では歴代の役員の方々にご苦労いただきました。諸先輩方から「サッカーのまち伊勢」としての人づくり、絆づくり、まちづくりを柱とし、青少年の健全育成と地域の活性化に寄与することを活動方針とすることを受け継ぎ、達成へ向け邁進しております。

半世紀の歴史を振り返りますと、当初は手作りの

都市計画グラウンドやグリーントピアに始まり、朝熊グラウンドから現在は地元企業・伊勢市のおかげで伊勢フットボールヴィレッジとして5面が整備され、伊勢市民はもとより全国の方々に利用いただける環境が整いました。サッカーのまち伊勢としての知名度も上がり、サッカーを通して伊勢の素晴らしさを体感していただけると自信しております。

次世代へ継承すべくこれからも協会活動に精進していく所存です。今後ともご支援・ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。



協会設立50周年によせて 理事長 江崎 徹

これまで地域のサッカーの発展にご尽力された方々に心より感謝申し上げるとともに、そのご功績にあらためて敬意を表します。また、選手・保護者をはじめ、地域の多くの皆さまからの日頃のご支援に厚く御礼申し上げます。

本協会は、1971年に設立以降、NPO法人化も果たしながら現在に至っています。2007年には伊勢市と地元企業のご厚意により伊勢フットボールヴィレッジが建設され、2013年にクラブハウスを併設した全国に誇れる活動拠点として整備されました。それまでも

本協会は、子どもたちが生き生きプレーする姿や応援する方々の笑顔を増やせるようサッカー環境の整備に努めてきました。加盟チームの活躍やJリーガーの誕生など、地域の皆さんのお力により多くの成果も得られています。

協会の役割はますます多様化していますが、次の50年を見据え、サッカーを通じて地域の活性化に貢献できるよう、今後も進化し続けていきたいと考えています。よろしくお願いいたします。



伊勢協会出身Jリーガー 経歴・メッセージ



協会創立 50 周年、誠におめでとうございます。約 30 年前、進修小学校のグラウンドで練習をしていた五十鈴サッカー少年団を見て、「サッカーがしたい」と思ったことを今でも鮮明に覚えています。そして、その日からサッカーが大好きとなり、サッカー馬鹿の 1 人となりました。先輩方からいただいた想いを、次は伝えていくことが私の出来る地元への恩返しだと思います。今後 10 年先、30 年先、50 年先、伊勢地域のサッカーが発展していくよう、微力ですが頑張りたいと思います。

金守 智哉

五十鈴少年団→五十鈴中学校→四日市中央工業高校→大分トリニータ→沖縄かりゆしFC→愛媛FC→FC.ISE-SHIMA



協会創立 50 周年、誠におめでとうございます。地域のサッカーボーイズに努めてこられたことに敬意を表します。1993 年の J リーグ開幕を見て、サッカーを始めた私に、1 から教えてくださったのは、少年団の監督や協会の方々でした。プロになって 18 年、今なお現役を続けていられるのは、あのころに味わったサッカーの楽しさが消えないからだと思っています。改めて感謝申し上げます。これからもサッカーの魅力をたくさんの方たちに伝えさせてください。伊勢サッカー協会のさらなる発展を祈念致しております。

水本 裕貴

御園少年団→ISC(現ソシエタ伊勢 SC)→三重高校→ジェフユナイテッド市原/ジェフユナイテッド千葉→ガンバ大阪→京都サンガ F.C.→サンフレッチェ広島→松本山雅 FC→サンフレッチェ広島→FC町田ゼルビア→SC相模原



伊勢サッカー協会 50 周年おめでとうございます。今後、60 年目いや! 100 年目を迎える協会になる事を祈っています。僕も、これからも少しでも伊勢地域の力になっていきたいと思います。今後も、伊勢地域のサッカー少年たちと共に夢を追いかけていってください。今の僕があるのは、さるめ杯、リーグ戦、奥野杯などたくさんの大会を開催してもらったからだと思います。これらの大会は今でもいい思い出になっています。今は、僕が伊勢にいた時よりもいい環境になっていると思います。これからも、さらに上を目指し、僕自身もですが、子供、大人も日々努力し、共に成長していきましょう!

八田 直樹

一色少年団→港中学校→ジュビロ磐田ユース→ジュビロ磐田



この度は 50 周年をお迎えされましたこと、誠におめでとうございます。僕は 2021 年 2 月、16 年間続けたプロサッカー選手を引退しました。16 年間プロサッカー選手としてやれたのは、小学 2 年生からお世話になった修道 FC、伊勢サッカー協会の皆様のおかげです。サッカーのことはもちろんですが、サッカー以外の事をたくさん教わりました。そのおかげで今の自分がいます。これからは今までの経験を子供達に教えていく立場にあると思っています。今後のさらなる発展を心よりお祈り申し上げます。

森下 俊

修道 FC→五十鈴中学校→ジュビロ磐田ユース→ジュビロ磐田→京都サンガ F.C.→川崎フロンターレ→横浜 FC(期限付移籍)→ジュビロ磐田(期限付移籍/完全移籍)→いわてグルージャ盛岡→引退(2021 年)



伊勢協会 50 周年おめでとうございます。私のサッカーの原点は伊勢トレです。いまは綺麗な人工芝ですが、私がいた頃はサンアリーナのグラウンドは赤土でした。沢山の擦り傷を作りながら練習や大会をした思い出があります。5 年生の時に地区別対抗で四日市との PK 戰を勝利して東海大会に出場した事は今でも鮮明に覚えています。東海大会ではボロ負け。上には上がいる事を痛感し、帰つてからはより練習に打ち込んだ毎日でした。素晴らしいグラウンドや指導者がいる伊勢協会。次の 50 年の間では伊勢の地から日本をそして世界を代表する選手が沢山現れてくることを期待しています。

大畑 拓也

大湊 FC→港中学校→ジュビロ磐田ユース→ジュビロ磐田→順天堂大学→アスルクラロ沼津 SC→SC 相模原→藤枝 MYFC→エリース 東京 FC



「サッカーを永遠に愛する選手の育成」これは僕が三年間を過ごしたソシエタ伊勢 SC の目標です。プロになり振り返ると中学三年間多くの方に支えられて今があると感じます。本気でプロを目指すため、伊勢市に転校し毎日ボールを蹴り続いた日々は一生の財産です。温暖湿润な気候、整備されたグラウンドでプレーできるところは世界的にみて当たり前の環境ではありません。伊勢市の素晴らしい環境に感謝し永遠にサッカーを愛し後輩達と J リーグの舞台で共にプレーできる日を楽しみにしています。これからの伊勢市のサッカー文化の発展を祈念しております。

谷奥 健四郎

大王 SS→浜島 FC→ソシエタ伊勢 FC→四日市中央工業高校→順天堂大学→松本山雅 FC→アスルクラロ沼津→松本山雅 FC→カターレ富山→プラウリツク秋田→ヴィアティン三重

1 西ドイツ(当時)チームとの交流事業

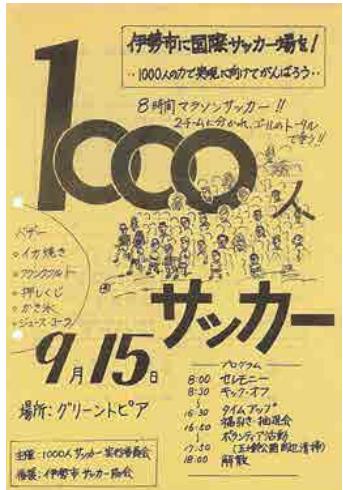


西独・日・国際親善サッカー大会 1983.4.2

1970～80年代、上野市(現伊賀市)サッカー協会は高校生年代の西ドイツ(当時)チームとの交流を行っていた。上野市から伊勢での受け入れを打診された。このことがきっかけとなり、協会役員の組織化や協会が地域との様々な連携をすすめることにつながる大きな転機となった。伊勢での滞在は3日程度であったが、歓迎セレモニーやホームステイを企画する経験を経て協会組織や活動の基盤ができあがった。高校生が上野市に混ざる遠征を2度経験し、1988年には伊勢市高校生単独での遠征にもつながった。



2 1000人サッカー・国際サッカー場建設運動



伊勢市における少年を中心としたサッカー熱の高まりとともに、鈴鹿市にサッカー専用競技場が建設されたこともあり、伊勢市に国際サッカー場建設を目指す動きが生まれた。協会として実現へ向け、Tシャツ・のぼり・ステッカーをつくり、商店街や駅前等での署名活動を展開した。その機運をより高め、地域でのサッカー活動をさらに盛んにすることを目的とし、1000人サッカー大会をグリーントピアで開催した。少年チームはもとより中学生、女子、社会人チームも参加し大いに盛り上がった。



3 全国スポーツ・レクリエーション祭(スポレク)



「勝敗のみを競うのではなく、誰もが、いつでも、どこでも気軽にスポーツ・レクリエーション活動を楽しみ、交流を深めること」を目的とし、1988年から2011年まで全国で開催された。伊勢市は1994年11月に北九州市で開催された「スポレク北九州市'94」に県サッカー協会の推薦を受け、三重県代表として参加した。現役を退いた伊勢フットボールクラブのメンバーと協会役員でチームを構成した。今大会にはメキシコオリンピック日本代表のFW杉山選手が静岡県の代表として出場していた。2001年には伊勢市を中心に「スポレクみえ」が開催された。

4協会フェスティバル



少年団加盟チームの交流を深めることを目的とし協会主催のフェスティバルを開催することになった。参加者が楽しめるリクレーション的な競技や各チームが出店するなどお祭り要素をもちらながら協会が団結していくイベントとなった。当初は都市計画グランドで行っていたが、グリーントピア、朝熊山麓競技場、伊勢FVへと会場が移っていました。参加者も少年団中心から、縦つながり(一貫指導)を大切にする考え方も踏まえ、登録全チームを対象とし、子どもから大人まで幅広く交流できるよう内容を工夫し、また一般市民も参加できる場ともなっている。サッカー教室として松木安太郎さんなど、往年の名選手も多数招いた。



5日韓サッカー交流



毎日新聞社主催の国際交流事業である韓国遠征の話を毎日新聞伊勢支局からいただいたことがきっかけとなり、韓国遠征が実現した。基本的に少年トレセン選手が参加。サッカーの競技性における刺激を受けたことはもちろんあるが、言葉、食事を含め様々な交流ができたことは選手にとって大きな経験となった。伊勢市からの助成をはじめ、関係機関の協力を得て様々な困難を乗り越え継続できた。



6ドリームマッチ



2018年より3年間開催した。それまで、協会登録チーム出身のJリーガーは種別のサッカーレッスンや出身チームとの交流を個別に行っていた。しかし、6名ものプロ選手が一堂に介し、地元の選手たちに勇姿を見せる機会を持つことは地域にとってプラスになると想え、所属チームの理解、地元への恩返しの気持ち、行政の協力等がうまく重なり、地元出身の社会人、大学、Jユースチームで高い競技力を持つ選手も多くいたことから「ドリームマッチ」と名付け、一日限定のチームを編成し、地元社会人トップチームとの対戦が実現した。

サッカーグランド建設の歴史

1 都市計画G(通称:都計)



2 グリーントピア(現在は競技場サブトラック)



三重県営体育館隣接土地(現在は駐車場)は当時、国有地を伊勢市が管理していた。少年団で使用することはあったが、草刈りが欠かせず常時使用する環境ではなく、試合前に選手が横一列に並び、石拾いを行ってから実施する状況だった。それまでは市内で大会を開催する場所がなく、大会といえば北勢をはじめ市外へ出かけることがほとんどであった。そこで、この土地を継続的にサッカーが使用できるグランドにすべく少年団保護者が市当局と折衝。合意を得たが、整備費用を負担できる財源がなく困っていたところ、サッカー少年団所属の保護者(建設会社)の好意により整備に至った。

元は桜小道。伊勢市の都市計画事業により芝生広場に変更。最初の使用は西ドイツチームの伊勢訪問時。1000人サッカー大会をはじめ、フェスティバル等多くの協会事業を展開した。



3 朝熊グランド(朝熊山麓公園内)



4 天然芝グランド



まつり博(1994年)駐車場の跡地を伊勢市によりクレート2面が整備され、1996年に使用開始した。1994年には伊勢協会として国際サッカー場建設運動を展開し、7万筆の署名を集めた。国際サッカー場の実現には至らなかったが、この運動がサッカー場2面の整備につながった。

グリーントピアが伊勢市駐車場として使用されるようになり、芝生を使用できる唯一のグランドとなった。ラグビーとの共用。

5 伊勢フットボールヴィレッジ



2007年10月、伊勢市のフットボールヴィレッジ構想に地元企業である株式会社赤福が賛同し、現在のC・Dピッチをクレーのグラウンドから人工芝+ナイター設備付きにリニューアル。また、2013年、現在のA・Bピッチが三重県と伊勢市の土地の等価交換を行った後、2面の人工芝と1面のナイター設備がクラブハウスの建設と共に完成。Aピッチには900席の観客席が完成。同時に天然芝のEピッチにも簡易ハウスも併せて寄贈された。2013年3月3日オープニングイベントも盛大に開催され、現在全国大会が開催されることとなり、伊勢地域のサッカーレベルの向上と協会活動理念の柱の一つである「まちづくり」にもつながっている。

社会人部(第1種)

活動の経過

1971 年の設立当時から市長杯などで活動しているチームも存在しましたが、協会主催の社会人リーグとして各チームが組織化されたのはちょうどJリーグが発足した 1990 年代でした。その後、社会人リーグを中心に、市長杯、スプリングカップ等の大会を毎年開催しています。その中から、全国社会人選手権や全国自治体職員選手権に出席するチームが出てくるようになってきました。さらに、FC.ISE-SHIMA は Jリーグ加盟を目指すチームとして活躍が期待されます。また、現在は、ハナキンフットボールを開催するなど、協会内外の方にもサッカーを楽しんでもらえる環境づくりにも取り組んでいます。



ハナキンフットボール 2014



社会人リーグ表彰式



社会人リーグ表彰式



FC. ISE-SHIMA
「いじめ防止応援センター」2021.11

2021年度 協会加盟チーム

伊勢市役所・伊勢 YAMATO FC・FC ISE-SHIMA・北浜 HEVA・皇學館大学・SHIMA CITY FC・南勢シニア・ビエンヴェニードス玉城・Forza・BLAZE・LOCAL F.C.

高校部(第2種)

活動の経過

協会発足以前から高校ではサッカー部が存続していたので、各チームでは 50 年以上の歴史を有していることになります。1993 年度県新人において伊勢工業が準優勝の成績を収め、宇治山田商業は 2005 年度の県総体準優勝・東海総体 3 位を皮切りに合わせて県総体準優勝 2 回、県新人優勝・準優勝各 2 回の実績を残し、2014 年度には全国高校サッカー選手権に出場しました。また、志摩高校の登録や伊勢学園高校のサッカー部新設など高校年代でも裾野が広がってきました。



宇治山田商業 選手権県大会決勝 2014.11



宇治山田商業 選手権県大会決勝
勝利の瞬間!



宇治山田商業 選手権県大会決勝
山商3-1四中工



宇治山田商業
選手権全国大会開会式 2014.12

2021年度 協会加盟チーム

伊勢・伊勢学園・伊勢工業・宇治山田・宇治山田商業・皇學館・志摩

中学部(第3種)

活動の経過

1980 年、五十鈴中学校で同好会としてスタートしたのがこの年代最初のチームでした。顧問は校長先生が引き受け、体育館とテニスコートの間のスペースで活動をしていました。少年団チームの増加・充実に伴い、中学年代での活動の場が望まれるようになり、クラブチームの発足と中学校での新設につながりました。さらに、Jリーガーの誕生や県内外での競技成績の向上もあり、最大 10 チームの登録に至りました。現在、ソシエタ伊勢 SC(元 ISC Jr)は常に県内で上位成績を収めるチームに成長しています。



五十鈴中創部 1980.7



港中全国大会 2001.8



伊勢中学生リーグ 2009.9



五十鈴中全国大会 2019.8

2021年度 協会加盟チーム

伊勢 YAMATO FC JY・五十鈴中・伊勢宮川中・FC ISE-SHIMA・小俣中・倉田山中・ソシエタ伊勢サッカークラブ・二見中・港中

少年部(第4種)

活動の経過

1975年、四郷・進修小の児童を対象に五十鈴サッカー少年団が発足しました。その後、サッカー人気の高まりとともにチーム数が増加しました。長年、少年部の大会運営の議論が理事会で行われるなど、少年部の活動が協会活動の柱となっていました。現在も登録チーム数は少年部が最も多く、協会の土台となる重要な役割を担っていると言えます。キッズ年代もあわせ、最初にサッカーに出会う場なので、各チームの特色や個性を出しながらサッカーの楽しみや喜びを伝えられるよう活動しています。



少年トレセン県大会 1996.10



エーベックス杯表彰式 1993.12



中島少年団 全日本少年フットサル大会出場
新聞記事 2002



キッズ講習会 2009.5

女子部(第5種)

活動の経過

少年期から中学・高校年代への継続と競技力の向上、保護者としての関りだけでなく、サッカーの魅力を感じられる機会の創出という多くの目的をもって活動しています。具体的には少人数でも可能なフットサル活動、フェスティバルでの親子参加、競技力向上のためのトレセン活動・大会開催等様々な工夫を凝らしています。中学年代までこの地域で選手として活動し、指導者として活躍する人も誕生してきました。

2021年度 協会加盟チーム

伊勢 FC Puro



くノーサッカー教室 2009



サッカースクール 2010



新聞記事



第9回ブリティーカップ開会式 2005.10



第10回ブリティーカップ 2006.7

技術部

活動の経過

長期目標・中期目標を掲げ、選手育成についてはレベルの高い「個」同士を集めて、良い環境、良い指導を与えること、レベルの高い者同士が互いに刺激となる状況をつくることをトレセンの目的として U10~15までの選手が伊勢フットボールヴィレッジにて伊勢トレセンとして活動しています。また、指導者養成については、指導者交流会、技術講習会を実施し種別を超えた指導者間交流及び資質向上に努めています。



指導者交流会



技術講習会 2017.10



少年トレセン 韓国遠征 2018.7



技術講習会 2018.1

審判部

活動の経過

協会主催のドリームマッチをはじめ、国体やインターハイなどの全国大会から地域の中学生・小学生の試合の担当まで、様々なカテゴリー・幅広い年代で日々活動しています。2018年に行われた三重インターハイでは、二名の審判員が派遣され、主審や第四審判員を担当しました。現在、宇治山田商業高校OBの高橋さんが、将来のJリーグ担当審判を目指して奮闘しています。

県協会審判部と連携し、審判員の育成と普及活動を行っていますので、サッカーやフットサルの審判に興味をお持ちの方は、お問い合わせください。



—協会のあゆみ

伊勢サッカー協会

		W杯日韓大会		W杯ドイツ大会		W杯南アフリカ大会		2004		2003		1999	
		2001	2002	2005	2006	2009	2010	2004	2003	2002	2001	H.11	
		R.3	R.1	H.30	H.29	H.27	H.26	H.25	H.24	H.22	H.17	H.15	
W杯ロシア大会													
2021	2019	2018	2017	2015	2014	2013	2012	2010	2009	2008	2007	2003	tototo開始
FC. ISEI-SHIMA 全国社会人サッカー選手権ベスト16	FC. ISEI-SHIMA 全国社会人サッカー選手権ベスト16	FC. ISEI-SHIMA 全国社会人サッカー選手権ベスト16	FC. ISEI-SHIMA 全国社会人サッカー選手権ベスト16	ソシエタ伊勢SC 日本クラブユースサッカー選手権出場	五十鈴中学校 全中サッカー大会出場	伊勢フットボールヴィレッジ構想による人工芝コート2面・クラブハウス完成【第2期】	伊勢YAMATO FC Jr ダノンネーションズカップ全国大会ベスト16	北京オリンピック代表主将水本裕貴（当時京都サンガ所属）	伊勢フットボールヴィレッジ構想による人工芝コート2面・夜間照明整備【第1期】	中島少年団全日本少年フットサル大会出場	朝熊天然芝グランド使用開始	伊勢サッカー協会	伊勢サッカー協会
50周年記念事業	FC. ISEI-SHIMA 全国地域サッカーチャンピオンズリーグ2021準優勝（JFL・地域入替戦出場）			谷奥健四郎松本山雅FC入団	宇治山田商業高校 全国高校サッカー選手権出場			大畠拓也ジュビロ磐田入団 U20日本代表					第1回高校リーグ — 日韓親善少年大会開催
FC. ISEI-SHIMA 全国社会人サッカー選手権ベスト16	FC. ISEI-SHIMA 全国社会人サッカー選手権ベスト16												港中学校全中サッカー大会ベスト16 — 金守智哉大分トリーータ入団
													U-15日本代表八田直樹、森下俊

2020

2010

2000